

市之倉まちづくり実行委員会（多治見市）

中心市街地

産業・文化・まちなみ

取組の背景

市之倉町は、古くから陶焼くまちとしての歴史があり、また、さかづきのまちとして全国的にも有名なまちで、その市之倉町をより魅力的なまちにするために「産業振興」「文化振興」「地域活性化」「町並み保存」の4つの部門に分けて活動を行っている。

取組の概要

平成8年に多治見市が打ち出したオリベストリート構想の中で、市之倉町が本町の奥座敷として定められたのを機に、市之倉の魅力的なまちづくりを進めることを目的とし、人間国宝の故加藤卓男先生が提唱したまちづくり実行委員会が発足した。

取組の内容

平成8年9月に人間国宝の故加藤卓男先生、市之倉陶磁器工業協同組合理事長、市之倉郵便局長、多治見陶磁器卸商業協同組合市之倉支会会長、市之倉区長らが中心となり、「市之倉まちづくり実行委員会」を立ち上げるとともに以下の4専門部門を設置し、各部門毎のまちづくりに取り組んでいる。

【産業振興部門】

活動内容：まちおこし、イベント事業、ビジュアル産業の研究

【文化振興部門】

活動内容：盃美術館建設、市之倉陶の里づくり、町角ミュージアムの充実、伝承文化の掘り起こし、陶器でできた楽器の演奏会、権現様の境内で薪能

【地域活性化部門】

活動内容：地域活性化ネットワークづくり、自然環境の整備及び町並みの美化、市之倉の環境に合わせたマップづくり

【町並み保存部門】

活動内容：織部ストリートの整備、安土桃山街道のまちづくり、自然景観の保全と啓発

成果

会員は、市之倉で地場産業を営んでいる窯業関係者を中心に、一般の地域住民も多く参加しており、約100名余りによって構成されている。

さかづき美術館を建設し、市之倉町のまちづくりの中心施設として運営している。

国土交通省との協働で市之倉町地内の砂防ダムを建設し、陶の里にふさわしいダムを建設した。

まち興しイベントとしても、「明かりの器コンテスト」「窯元ウォッチング」「市之倉倉の市」等各種イベントを実施し、多くの参加者を得た。

まちづくりの基本構想を「陶の里・市之倉散策の小径 計画策定報告書」として策定した。

成果の要因

設立当初から地域の有力者が参画していたことや、多くの地域住民が会員としてまちづくりに参画するとともにコンセプトに対する理解があったこと、地域の特色として地場産業(窯業)があったことが、まちづくりの方向性を明確化し、地域としてのまちづくりの意識の一元化を図ることができ、各種イベントの開催においても地域の協力を得やすかったことがあげられる。

加えて、さかづき美術館の建設や市之倉町地内の砂防ダム建設において、行政とのコラボレーションを上手く図ることができた。

今後の課題

平成8年に委員会が設立されてから10年が経過し、メンバーが高齢化しており、持続的なまちづくりを続けていくためにも若い世代の参画がとても重要となっている。多くの方に市之倉町へ足を運んでもらうためにもIT技術を活用したPRを積極的に行っていくことが重要。

行政への期待

継続的な「まちづくり」を行う際に重要なことは、その主体となる住民が積極的に取り組んでいくことが重要。まずは住民が取り組み、その中で障壁があり前進できない場合に行政の手助けがあると良い。

この人にお話をうかがいました！

市之倉まちづくり実行委員会 代表 土本英雄さん

調査日：平成18年11月6日（月）

調査者：東濃振興局 楓